ファイナルレポート

国際コンポーネント・システム・アプリケーション専門見本市
2026 年 11 月 10 日～13 日
メッセ・ミュンヘン

2026 年 11 月 13 日

electronica 2026
過去最高を記録し、業界の未来へ力強い推進力を創出



Summary

- 出展者数 3,512 社、来場者数 8 万 6,000 人超と、過去最高を更新
- 国際色豊かな展示会としての存在感を一段と強化
- AI が「All Electric Society」実現への最重要テーマかつ推進力

Facts＆Data

会　　期	2026 年 11 月 10 日（火）～13 日（金） 午前 9 時～午後 6 時（最終日のみ午後 3 時まで）
会　　場	メッセ・ミュンヘン
主　　催	メッセ・ミュンヘン（Messe München GmbH）
規　　模	全 18 ホール 192,000 ㎡（2024 年：全 18 ホール 192,000 ㎡）
出 展 企 業	60 カ国・地域から 3,512 社（2024 年：58 カ国から 3,486 社）
来 場 者 総 数	107 カ国から 86,000 人（2024 年：113 カ国から 80,203 人）
専 門 分 野	エレクトロニクス、電子工学
主 な 出 展 品	半導体、エンベデッドシステム、ディスプレイ、マイクロナノ・システム（MEMS、マイクロ製造）、センサー技術、検査・測定技術、電子設計（ED/EDA）、受動部品、電気機械技術/システム/周辺機器（スイッチ＆キーボード、配線部品/システム、ケージング技術）、パワーサプライ、プリント基板・その他回路基材、受託製造サービス（EMS）、アセンブリ/サブシステム、オートモーティブ・エレクトロニクス、ワイヤレス技術、情報収集システム 対象業界：産業電子機器、オートモーティブ、鉄道技術電子機器、通信（有線）、無線、家電・娯楽製品、その他民生電子機器、事務・情報処理機器、医療電子技術、航空・宇宙・軍事用電子機器
専 用 U R L	www.electronica.de （英語 / ドイツ語）

将来を見据えた革新技術の発信、業界課題をめぐる活発な議論、そして新たな事業機会の創出に満ちた 4 日間となった。2026 年 11 月 10 日から 13 日にかけてミュンヘンで開催された electronica 2026 には、世界中のエレクトロニクス業界の関係者が集結した。



全 3,512 社が出展し、その 74%をドイツ国外企業が占めた。各社は最新の製品・技術・ソリューションを披露し、世界最大級のエレクトロニクス見本市としての存在感を強く印象付けた。来場者数は 8 万 6,000 人を超え、そのうち 54%がドイツ国外からの来場であった。

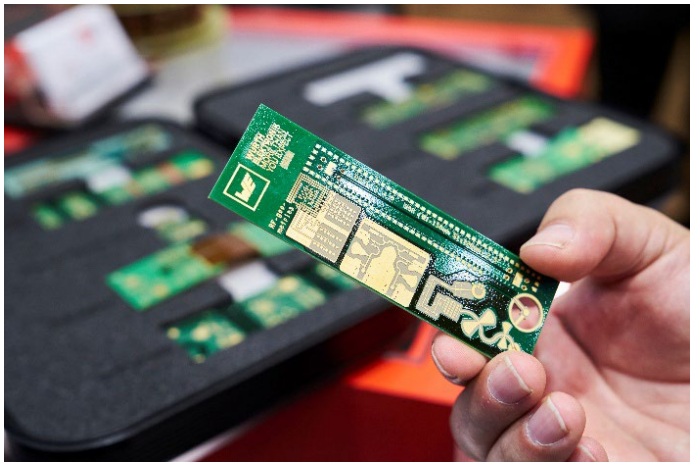
今回の最大のテーマは AI である。会場では、AI を活用した具体的なアプリケーションから、スマートセンサ、コネクテッドシステム、製造工程の自動化に至るまで、幅広いテクノロジーとソリューションが紹介された。また、並行開催された SEMICON Europa では、半導体製造に関する最新の技術やソリューションが紹介され、エレクトロニクス産業と半導体産業の双方が把握できる場となった。

メッセ・ミュンヘン CEO のラインハルト・ファイファーは、「出展者数と来場者数がともに過去最高を更新したという事実そのものが、今回の electronica の価値と存在感を如実に物語っている。極めて高い国際性を備えた electronica は、世界をリードする見本市として、またエレクトロニクス業界の関係者が集う世界有数の交流拠点としての地位をあらためて揺るぎないものとした。また、メッセ・ミュンヘンとの 10 年にわたるパートナシップを築いてきた SEMICON Europa とともに、electronica はテクノロジーとイノベーションを牽引する国際的ハブとしてのミュンヘンの存在感を一層高めるものとなった」と、今回の開催について向きに総括している。

ドイツのエレクトロニクス産業にも、景気回復に向けた明るい兆しが見え始めている。German Electro and Digital Industry Association（ZVEI）によると、2026 年 1 月から 9 月までの新規受注額は、前年同期比で 13%近く増加した。ただし、この数字だけをもってドイツのビジネス環境が全面的に改善したとは言えないと、ZVEI の Daniel Hager 会長は指摘し、「具体的なプロジェクトや投資がドイツ国内でのさらなる付加価値創出につながるよう、事業環境の抜本的な改善が必要である。産業用 AI やマイクロエレクトロニクスは、大きな成長機会を有する分野のほんの一例にすぎない。今こそ、こうした分野に果敢に取り組む必要がある。electronica 2026 はそのための出発点としたい」と述べている。

会場に広がる electronica スピリット

会場には、業界の将来に対する強い期待感と前向きな機運が満ちていた。electronica の運営責任者を務めるカロリン・パニエは、会場の様子について、「会場全体にみなぎる活力と熱気に深く感銘を受けた。革新的な先端技術に挑戦する情熱が会場の至るところで感じられた。活発な議論が交わされるとともに、新しいアイデアを形にしようとする取り組みが進められていた。出展企業が皆、electronica を 『ビジネスチャンスの見本市』と評しているのは、決して偶然ではない。この精神こそが、electronica を唯一無二のものにしているのである」と、熱く語っていた。



electronica 諮問委員会委員長であり、HARTING Technology Group 社 CEO の Philip Harting 氏も、こうした対面での交流が業界の将来に果たす重要性を強調し、「electronica は、我々の業界を牽引する原動力、すなわち技術の進歩、グローバルな連携、そして新たな技術に対する限りない情熱を体現している。エレクトロニクス産業の未来を切り拓く上で、直接顔を合わせての交流、強固なパートナシップ、そして共通のビジョンの共有がいかに重要であるかを、electronica は強く印象づけている。2028 年に

皆さんと再会できることを楽しみにしている」と述べている。



AI と将来技術に焦点

electronica 2026 を最も強く特徴づけたテーマは AI である。AI は単なる研究開発上のテーマではなく、さまざまな産業分野における実用化が進む技術として、会場の随所で存在感を示している。出展各社は、マートセンサからコネクテッドシステム、さらには自動化生産システムまで、多様な AI 活用事例を紹介した。また、電力を中心とした持続可能な社会「All Electric Society」の実現を支える要な技術領域として、サイバーレジリエンス（サイバー攻撃に対する強靭性・復旧力）や省エネルギー技術も主要テーマとして注目を集めた。

これらのテーマは展示だけでなく、併催プログラムでも重点的に取り上げられている。例えば、electronica forums では、AI、サイバーセキュリティ、エネルギー効率など、今後の産業発展に直結するテーマについて深く掘り下げられた。

新設された特別エリア「edge lab LIVE!」も多くの来場者を集めた。同エリアは、実際のアプリケーションやワークショップを通して、エッジコンピューティングの実践的な活用手法を具体的に体験できる場として注目された。

また、スタートアップ企業向け企画では、新興企業が自社の革新的な技術やソリューションを披露する舞台が提供された。さらに、業界を担う次世代の人材を対象とした「Young Talents Days」では、会場アーや各種ワークショップが実施され、多くの学生や若手人材がエレクトロニクス業界の最新技術に触れる機会となった。

財界の要人が会する華々しいオープニング

見本市開幕の前日から、既に業界全体に弾みをつける重要な動きが始まっていた。まず、前日に「electronica Automotive Conference」が開催され、自動車エレクトロニクスの最新トレンドや技術開発の動向について、専門家が議論を交わした。さらに夕刻には、「electronica Executive Event」が開催され、産業界・政界の要人が一堂に会した。



Infineon 社、NXP 社、STMicroelectronics 社の経営幹部らは、世界の半導体市場における欧州の役割をはじめ、Physical AI や Edge AI がもたらす新たな事業機会、さらには今後必要となる投資や事業環境の整備について意見を交わした。また、Siemens 社は基調講演を通して、実際に技術を利用する側からの視点で、課題や期待を提示した。

こうした欧州の技術競争力を巡る議論は、見本市初日に新設された「electronica Opening Dialog」へと引き継がれ、更に議論が深められた。

SEMICON Europa が頼もしいパートナーとして参画

SEMICON Europa は、2.5 ホール規模で electronica と並行して開催された。半導体製造における最新の技術やソリューションを紹介することで、electronica の出展内容を補完し、エレクトロニクス産業のバリューチェーン全体を一体的に捉える機会を提供した。

SEMI Europe 会長の Laith Altimime 氏は、「SEMICON Europa には、欧州半導体産業の次なる発展を共に切り拓くべく、世界の半導体サプライチェーンを代表する企業・関係者が一堂に会した。今年は、メッセ・ミュンヘンとの戦略的パートナップ 10 周年という節目の年でもある。NextSEMI ARENA の新設や hackathon の開催に加え、展示エリアの拡大、さらには完売となった展示ホールへの過去最多の来場者数など、あらゆる要素が相まって極めて充実したイベントとなった」と述べている。

数字で見る electronica 2026

electronica 2026 には、60 カ国・地域から 3,512 社が出展し、そのうち 74%をドイツ国外企業が占めた。出展者数の上位 10 カ国・地域は、ドイツ、中国、台湾、米国、フランス、英国、イタリア、香港、オランダ、スイスの順である。

来場者数は 107 カ国・地域から 8 万 6,000 人を超え、そのうち 54%がドイツ国外からの来場であった。世界各地から業界関係者が集まり、エレクトロニクス産業における国際的な情報交換・商談・ネットワーキングの場として、electronica の存在感を改めて示す結果となっている。来場者数の上位 10 カ国・地域は、ドイツ、イタリア、中国、フランス、英国、オーストリア、米国、スイス、オランダ、スペインの順である。

次回の electronica は 2028 年 11 月 14 日から 17 日、ドイツ・ミュンヘンにて開催される。
詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.electronica.de をご参照ください。

electronica 2026 主な日系出展社（50 音順）

愛知製鋼㈱、旭化成エレクトロニクス㈱、㈱アクトデザイン、旭計器㈱、㈱ADEKA、Aratas㈱、㈱アルバック、アルプスアルパイン㈱、池上通信機㈱、YITOA マイクロテクノロジー㈱、伊藤機械㈱、（公財）いばらき中小企業グローバル推進機構、イリソ電子工業㈱、内橋エステック㈱、㈱エイゾス、㈱ SHT、Orbray㈱、オムロン㈱、加賀 FEI㈱、㈱華光、樫山工業㈱、釜屋電機㈱、㈲川澄製作所、㈱キーエンス、キオクシア㈱、菊水電子工業㈱、北川工業㈱、九州電通㈱、京セラ㈱、恵和㈱、コアスタッフ㈱、コーア㈱、コーデンシ㈱、㈱サーキットデザイン、（公財）さいたま市産業創造財団、㈱サイマコーポレーション、サン電子工業㈱、シチズンファインデバイス㈱、㈱ジャパンディスプレイ、信越化学工業㈱、進工業㈱、スミダコーポレーション㈱、住友電気工業㈱、㈱精研、セイコーエプソン㈱、ソニー㈱、第一精工㈱、大陽工業㈱、太陽誘電㈱、TDI エレクトロニクス㈱、TDK㈱、㈱テクニスコ、㈱ディスコ、㈱デンソー、㈱Doog、㈱東芝、ニチコン㈱、㈱ニプロン、㈱ニッポンインダストリーズ、日本ケミコン㈱、日本電気硝子㈱、日本電計㈱、日本電子㈱、日本電波工業㈱、（独）日本貿易振興機構、浜松ホトニクス㈱、日置電機㈱、日立エナジージャパン㈱、ヒロセ電機㈱、㈱フジキン、㈱フジクラ、藤倉コンポジット㈱、富士高分子工業㈱、本多電子㈱、松浪硝子工業㈱、丸紅㈱、三菱ガス化学ネクスト㈱、三菱マテリアル㈱、㈱三ツ矢、武蔵エンジニアリング㈱、㈱村田製作所、㈱メイコー、㈲メガテック、山一電機㈱、㈱ヨコオ、横河電機㈱、㈱ランドガレージ、利昌工業㈱、リズム㈱、ルネサスエレクトロニクス㈱、ルビコン㈱、ローム㈱　ほか

SEMICON EUROPA 2026 主な日系出展社（50 音順）

旭ダイヤモンド工業㈱、アズビル㈱、アドバンテスト㈱、アポロ精工㈱、AGC㈱、ウシオ電機㈱、兼松㈱、KISCO㈱、㈱キッツエスシーティー、キヤノンアネルバ㈱、京セラ㈱、㈱クリエイティブテクノロジー、㈱KOKUSAI ELECTRIC、サムコ㈱、三相電機㈱、CKD㈱、信越化学工業㈱、㈱シンキー、積水化学工業㈱、㈱潤工社、㈱伸興、住友重機械工業㈱、住友重機械マテリアルソリューションズ㈱、住友精密工業㈱、㈱清和光学製作所、双日マシナリー㈱、第一実業㈱、ダイキン工業㈱、大日商事㈱、㈱ダイフク、タツタ電線㈱、D&X㈱、東北大学マイクロシステム融合研究開発センター、東北マイクロテック㈱、東京エレクトロン㈱、東京応化工業㈱、東レエンジニアリング㈱、㈱巴川コーポレーション、ナガセケムテックス㈱、㈱ニコン、ニデック㈱、日本シイエムケイ㈱、日本通運㈱、浜松ホトニクス㈱、㈱日立ハイテク、㈱日立パワーソリューションズ、富士フイルム㈱、富士フイルム エレクトロニクスマテリアルズ㈱、ボールウェーブ㈱、㈱堀場製作所、㈱ミツトヨ、三菱ケミカル㈱、宮城県庁、村田機械㈱、㈱リガク、理研計器㈱、リンテック㈱、㈲ワイ・システムズ、ワッティー㈱　ほか

資料請求、各種お問い合わせ先：
株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン
〒105-0001　東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階
Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584　e-mail: info@messe-muenchen.jp
URL: www.messe-muenchen.jp （日本語）www.messe-muenchen.de （英語 / ドイツ語 ）